



環境保全米通信



2026年6月発行

夏号



宮城県岩沼市の竹駒神社では、毎年、豊作を祈願する御田植祭が行われています。御田植祭は、約70年以上続く伝統の神事で、田歌が響く中、田人や早乙女の姿に扮した宮城県農業大学の学生たちが、苗を丁寧に植えていきます。例年、植えられた苗は9月に収穫され、11月の新嘗祭で奉納されます。

もくじ

1. 赤とんぼセミナー実施報告
2. 環境保全米生きもの調査報告
3. 環境保全米が買える店・食べられる店「レストランぴあ」
4. 読者アンケートの質問にお答えします。～教えて高橋芳道理事長!～

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



『みやぎの環境保全米』とは

宮城の自然豊かな環境を守るために、農業・化学肥料を県の標準的使用量の半以下に減らし、自然と人間の力を合わせて生産されたお米です。

みやぎの「環境保全米」の取り組みは1992年のリオデジャネイロ地球環境サミットをきっかけに始まっており、SDGs (持続可能な開発目標) の実践そのものです。

バックナンバーもご覧下さい。



(JA宮城中央会のHPにリンク)



アンケート応募でお米プレゼント!
詳細は最終面

1. 赤とんぼセミナー-実施報告

環境に配慮した農業を推進する国の「みどりの食料システム戦略」(みどり戦略)への理解を深める「赤とんぼセミナー」が3月27日、仙台市市民活動サポートセンター(青葉区)で開催されました。東北農政局持続的食料システム戦略推進官の江上智一さん(4月に近畿農政局に異動)の講演と、主催したNPO法人環境保全米ネットワークの高橋芳道理事長と江上智一氏の対談を紹介します。



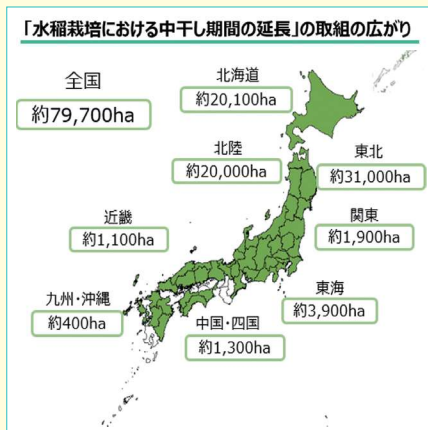
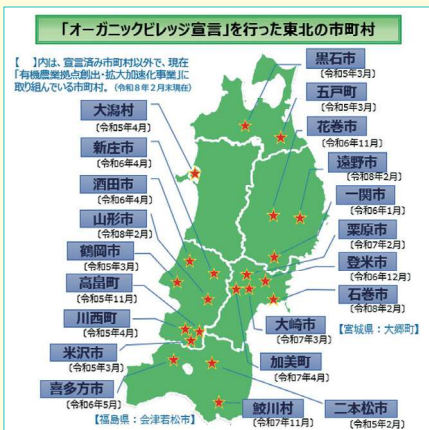
◎赤とんぼセミナー①/講演

平均気温の上昇など気候変動がみどり戦略の背景にあります。生産現場でも、高温で農産物の品質低下が起きています。温室効果ガスは世界的な課題で、世界の排出量のうち農林業とその他土地利用による排出が22%を占めています。日本では農林水産分野の排出割合は4.8%ですが、(稲わらの発酵に伴う)田んぼや家畜の排せつ物などから発生するメタンガスを少しでも減らすことが求められています。

2021年に策定されたみどり戦略は50年までの目標を設定。化学農薬の使用量50%低減や化学肥料30%低減、耕地面積の0.8%にとどまる有機農業面積の25%への拡大などを盛り込んでいます。

こうした取り組みを支える制度の一つが、生産者対象の「みどり認定」です。温室効果ガスの削減などに取り組む5年間の計画を県に申請して認定されると、無利子融資などを受けられます。宮城県内では1797の経営体が認定を受けています。「J-クレジット」という制度もあります。温室効果ガスの排出削減・吸収量を国が認証して取引を可能にする制度です。対象となる(田んぼ中の発酵抑制につながる)中干し期間の延長は、東北では3万1000㍍で取り組まれています。

みどり戦略を基に、東北各県は基本計画を定めています。宮城県は有機JAS認証に取り組む耕地面積を19年の330㍍から30年に500㍍に拡大する目標を掲げています。地域ぐるみで有機農業に取り組む「オーガニックビレッジ」宣言は、東北では20を超える自治体が行っていますが、宮城は登米市や石巻市など北部が中心。県南の自治体もぜひ宣言してほしいと期待しています。



◎赤とんぼセミナー②/対談

高橋 みどりの食料システム戦略に対して、消費者はどうか対応していけばいいのでしょうか。

江上 環境負荷の低減に配慮した農作物を選ぶとともに、食品ロスを減らし、消費できないものは肥料や資源として活用する。生産と流通、消費の循環を意識し、そうした循環を応援していくことが大事だと思います。

高橋 宮城県内では、環境保全米ネットワークが推進する環境保全米の普及に、JAや生産者が一緒になって取り組み、学校給食にも提供しています。こうした活動は、みどり戦略の中で評価されていますか。

江上 環境保全米ネットワークは1998年設立で、早くから環境負荷の低減を実践してきました。まさにみどり戦略にとって大変参考になる取り組みです。

高橋 オーガニックビレッジについて伺います。地域によって取り組み具合に違いはありますか。

江上 例えばオーガニックビレッジを宣言したものの、生産者の考えがさまざま、具体的な計画策定の取りまとめに苦労する例があります。解決の糸口をつかむには情報交換が有効で、自治体による連絡会議やネットワークを作り、横のつながりを持ちながら有機農業を推進していきたいと考えています。

高橋 オーガニックビレッジは4、5年で補助金が終わるかと思っています。補助金終了後もどうしたら生産活動を続けていけるでしょうか。

江上 地域で消費していくとともに、県をまたいだ販売策

も大切。ECサイトを使うことで首都圏や関西圏でも販売できます。高橋 大阪の泉大津市と北海道旭川市は合同でオーガニックビレッジを宣言し、旭川市で作られる有機米を泉大津市に提供しています。全国的にも使える方策かもしれませんね。

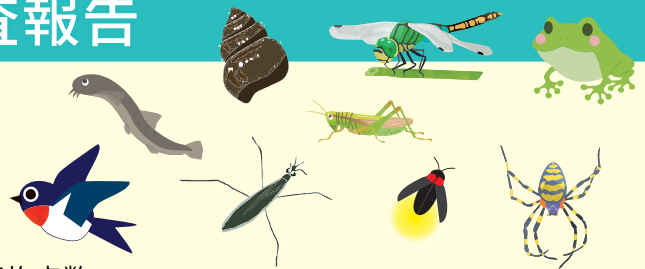
江上 有機農産物は海外で需要があり、輸出を考えることがあっていいと思います。



2. 環境保全米生きもの調査報告

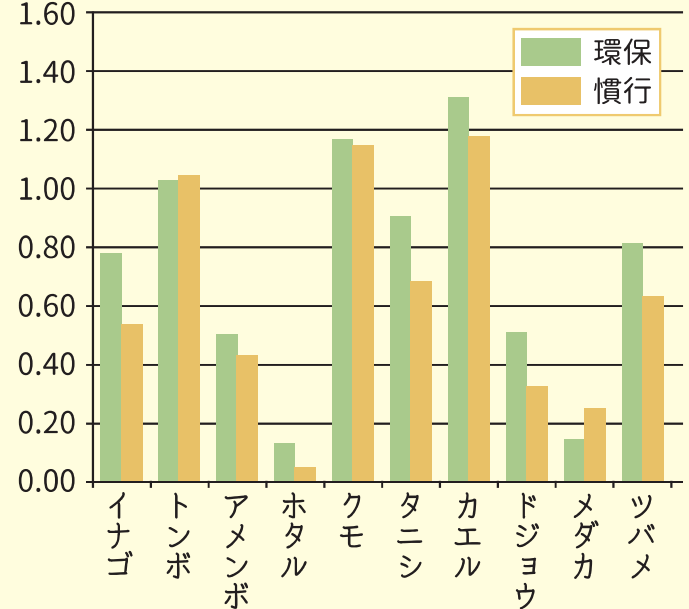
環境保全米ネットワークは、2008年から田んぼの生き物調査を継続し、環境保全米づくりが、いかに水田の環境を守っているかを検証しています。4つのJAの協力のもと、慣行栽培米と環境保全米の田んぼで生き物の多さを3段階で評価し、2025年度の平均点を算出した結果をお知らせします。(図1)

その結果、カエル・クモ・トンボの平均点が高く、ホタル・メダカ・ドジョウの順で低い傾向が確認されました。多くの生き物で環境保全米栽培が上回ったが、トンボとメダカでは慣行栽培が上回る例外が見られたのは、猛暑と渇水によって水環境(水温・水位など)が極端化した結果、農薬使用の有無や多寡よりも、気象ストレスの方が支配的になったのではないかと考えられます。田んぼは、おいしいお米と多様な生き物を育むとともに、豊かな文化、地域、環境を育む場でもあります。生き物でにぎわう田んぼを創出しながら、私たちの健康や安全、地域に根ざした文化を守るためにも、田んぼの生き物調査のさらなる継続を期待したいです。 考察者：宮城教育大学 教授 溝田浩二氏



平均点数

2025年生き物調査結果(図1)



3. 環境保全米が買える店・食べられる店「レストランぴあ」

宮城県庁の最上階(18階)にある「レストランぴあ」は、仙台の街並みを一望できる解放感あふれるレストランです。運営する社会福祉法人「仙萩の杜」は、地域に根ざした福祉の取組みとともに、県内の食材や環境保全米を使用したメニューを提供しています。

また、併設されている「ぴあマルシェ」では、県内の障がい福祉サービス事業所で作られた食品も販売しており、地域と福祉をつなぐ場として多くのお客様に親しまれています。



チキン南蛮タルタル 968円(税込)



ポークカレー JAPANX 990円(税込)

SHOP INFORMATION

社会福祉法人仙萩の杜「レストランぴあ」

住所：980-8570 宮城県仙台市青葉区本町 3-8-1 宮城県庁 18階

アクセス：仙台市営地下鉄南北線 勾当台公園駅下車 徒歩5分

電話番号：022-398-9311 営業時間：昼食 11:30~14:15/ カフェ 13:00~16:00

定休日：土日祝祭日

「レストランぴあ」HP→



4.読者アンケートの質問にお答えします。 ～教えて高橋芳道理事長！～

(環境保全米ネットワーク)



Q



環境保全米の生産は、とても良い取り組みだと思います。収穫量とのバランスが難しそうです。無農薬だと尚更でしょうか？

A

そうですね、農薬や化学肥料を一切使わない方法でも作れますが、その場合収穫量は3割から4割位減ります。その分価格が最低でも3割から4割以上高くないと生産し続けることが出来ません。技術的には可能でも経済的に限られた人しか買えない農産物になってしまうと、生産者の努力を理解して買い支える消費者と共に生きて行くという環境保全米の理念に反してしまいます。なので、環境保全米は有機栽培だけでなく、農薬や化学肥料は一部使用するけど、環境への負荷は少なくして継続して生産し続けられる特別栽培農産物の栽培方法も応援しています。

Q



環境保全米は、日本全国に普及していますか？

A

環境保全米は、環境にも生産者にも優しい生産活動を行い、その価値を理解して、共有できる消費者に買って応援していただこうと宮城県で始められた活動です。最近全国的にも「みどりの食料戦略システム」に代表されるような環境に出来るだけ負荷をかけないで、継続して生産していく栽培方法を採用し、応援しようという流れが出てきていますが、まだまだ全国的には圧倒的に少なく、これからの課題となっています。

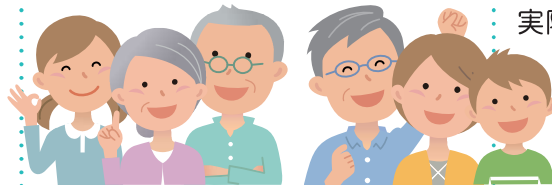
Q



農薬や化学肥料を県基準の半分以下と言わず、使わないという方へ舵は切れないのだろうか？本当の環境保全に繋がるのかと…

A

技術的には可能ですが、農薬も化学肥料も使わない有機栽培にすると、生産者の手間は2割以上多くなり、収穫量は3割から4割も少なくなります。その有機栽培農産物を買っているのは全国のおよそ2%の消費者です。収穫量が減った分だけ価値を理解して高く買ってくれる消費者がいないと、実際は成り立ちません。



<訂正とお詫び>

「環境保全米通信・春号」の「『有機農業の日』特製弁当、25年度も販売」において、一部の写真に誤りがございました。正しい写真は、右記QRコードよりご覧いただけます。読者の皆さまならびに関係者の皆さまにご迷惑をおかけしましたことを、深くお詫び申し上げます。



感想をお寄せください

アンケートをお寄せいただいた方には抽選で、**環境保全米2キログラムを10名様にプレゼント!**

Q1 興味を持った記事は?その理由も。

Q2 環境保全米への疑問や取り上げてほしいテーマ等。

[アンケート記入例]

●応募方法/次の項目をご記入の上、FAX・メール・郵送で応募先までお送りください。
●アンケートの回答 ●お名前 ●年齢 ●ご職業 ●ご住所 ●電話(FAX)番号
いただいた回答および個人情報は当法人にて厳重に管理しプレゼントの発送、または各種情報の提供、イベントの案内以外の目的では使用いたしません。

●応募締切/2026年7月31日(金) 消印有効 ※抽選結果は発送をもってかえさせていただきます。

●応募先/NPO法人環境保全米ネットワーク事務局

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉1-16-3 JAビル別館5F
TEL:022-261-7348 FAX:022-261-7488
E-mail:okome@epfnetwork.org URL:http://www.epfnetwork.org/okome/



Webフォームからもアンケートが送れます。スマホ、PCからラクラク入力!
左側のQRコードを読み取るとジャンプします。

●アンケートの回答
Q1 _____
Q2 _____
●名前 保全米 太郎
●年齢 40才
●職業 会社員
●住所
〒980-0011
宮城県仙台市青葉区
上杉1-16-3
●電話番号
022-261-7348